逗会（立教大学、東京理科大学、中央大学、法政大学）

安全対策のルールについて

2025.1.21
活動場所:逗子海岸
所属艇庫:CBサーファーズ
安全対策責任者：立教大学3年生　橋爪裕士

1.危険エリアについて

以下のエリアへの侵入は禁止とする。

・西浜CB側
浅く、岩場になっていてウニも多いため。
ジェットスキーの邪魔にならないように気を付ける。

・浜際の海水浴エリア（海水浴期間）
海水浴期間は海水浴エリアとの境に縄が張られるため。

・湾内のワカメ養殖エリア（冬季）
冬季は湾内に広範囲でワカメ養殖用の縄が張られるため。
→エリアを避けて湾外への行き来をする。

2.出艇条件

部員はそれぞれ以下の物を所持すること
・ライフジャケット
・充電したスマホ(アクアパックに入れて)
・笛
・レスキューシート
・水分(冬なら最低500ml、夏なら1ℓ以上)

また、出艇メンバーのうち最低一人は予備のジョイントを持っているようにする

誰かと一緒に出艇すること
・一年生は上級生、上級生は他の上級生とともに出艇するようにし、
一人で出ることは禁止とする。
※1人で出て海の上で気を失ったり、流されたり、怪我したり、致命的なリグトラなど、
命の危険があるため

コンディションに関して

・風速8m/s以上の風域(プレーニングコンディション)の場合ビギナーは湾内で練習とする。

・オフショア予報の場合、出廷時刻は艇庫の営業開始時刻の10時以降とする。

・出艇/帰着申告を、所属艇庫にある申告書に必ず記入する。

3.危機管理体制の整備

・海上解体の方法を全員が把握する。

・出艇前はウォーミングアップを行う。

・出廷前にバディを組み、練習中常にバディの位置と状況を把握するようにする。

風が強い日のセッティングや避難場所について
・湾内で乗れなくなった場合は"あぶ釣り"に帰着。
あぶ釣りに辿り着けなければ葉山港、湾外の場合は森戸海岸に帰着する。
・風が上がってきたら無理せずあぶ釣りなどに帰着してセッティングを28に変えたり、海上でダウンを引いてセイルを薄くする。

体調確認について
・体調が万全な状態であるか全員に確認を取る。
・少しでも異変を感じる場合は絶対に無理して出艇しない。

浜での道具の置き方について
・セールとボードを別々にして放置してはいけない。

・二部連での昼休憩の際はセールだけ重ね、ボードは壁側に一般の方々の邪魔にならぬように並べる。

・セールを置くときはマスト側から正しく風がながれるようにし、吹き飛ばされないことを十分に確認する。

4 トラブル発生時の対応

マストが折れた場合
・マスト上部が折れた場合はセイリングは可能なこともある。

・マスト下部が折れた場合はセイリング不可能。レスキューを求めるか、浜が近く風も弱かった場合は海上解体を行いパドリングで近くの浜に帰着する。

ジョイントのトラブルによりセイルとボードが離れた場合
換えのジョイントがある場合、それを利用する。
ない場合はレスキューを求める。

アップホールラインが切れた場合
ブームにもやい結びで結びつけるか予備のシートで取り付ける。

セールが破れた場合
セイリングが可能であれば浜に帰着する。不可能な場合はレスキュー。

５ レスキュー発生時の対応

艇庫(CBサーファーズ)の連絡先 046-873-5225

＜レスキューが必要な艇が１～２艇の場合＞

当事者が行うこと
・近くの艇にレスキューを求める。
・LINE グループにて、レスキュー発生時刻と状況、現在の位置を報告。
・近くにつかまれるものがある場合は、それにつかまりレスキューを待つ。
・テクノによる牽引が可能な場合は、海上解体を行い牽引され近くの浜に帰着する。
・不可能な場合、艇庫に連絡をしレスキュー艇を待つ。レスキュー艇が来るまで海上解体は行わない。

当事者以外が行うこと
・バディは陸にいる他の部員に連絡を取り、すぐに艇庫に連絡を取れる状況であることを確認する。

・テクノによる牽引が不可能な場合は、レスキューにあたる艇以外の人が艇庫に電話する。

＜レスキューが必要な艇が**3**艇以上の場合＞
キャプテンが直ちに艇庫に連絡し、スクールのレスキュー艇を待つ。

＜コンディションによりスクールのレスキュー艇が出艇不可能な場合＞
キャプテンが海上保安庁に連絡する。 電話番号：118